



めざせ!!

地域のヒーロー 消防団

問合せ
防災課地域防災係

消防団協力事業所 インタビュー



従業員が消防団に入団することは、事業所にとってさまざまなメリットがあります。今回は事業所の生の声をお聞きするため、消防団協力事業所であり、今年度、県知事から消防団関係優良事業所表彰を受賞した丸八重整備㈱の代表取締役社長である杉浦栄次氏にお話を伺いました。



●消防団について、どのようなイメージをお持ちですか。

消防団は地域に必要不可欠な存在だと思います。大規模災害が発生しなければ、消防団の存在意義を気付いてもらう機会は少ないですが、彼らは「自分たちのまちは自分たちで守る」という気概を持ち、日ごろから来るべき災害に備えて訓練をしている究極のボランティアだと思っています。

●御社が消防団員を輩出するようになったきっかけを教えてください。

弊社の会長の世代から消防団に関わっているので、現在もそのつながりがあります。社員にも消防団を経験し、消防団を通じて社会人として成長をして欲しいと感じたからです。例えば、幹部として消防団に入団する場合であれば、団員を束ねなければならない立場になると思います。この経験は、幹部としての素養を身に着けることができ、会社においても役立つと思います。また、年齢を問わず、深い関わりを持つことになるので、幅広いネットワークを築くことができます。自分の努力が少しでも役立ったことで、お礼を言ってもらえ、やりがいを感じることができる場所であり、社会人としても非常にいきてくる経験だと思っています。

●従業員が消防団に入団し良かった点、変化は見られますか。

消防団を通じて、多くの経験をし、自信や知識を身に着けたことで、社会的な視野が広がってきたと感じています。仕事のうえでもたくましく成長してきたのではないかと思います。また、責任感を持ち、リーダーシップを発揮するシーンが仕事中にも見えるようになりました。

●従業員が消防団員として活動するにあたり、就業時間中であっても、有事の際には出動することもあります。どうお考えですか。また、会社として支援していることはありますか。

有事の際にけがをしたり、長時間活動した後の仕事で無理をしてしまうのではないかと心配はあります。そのため、消防団員として日ごろから頑張っていることを社内で周知しており、有事の際は気持ち良く送り出せるような環境作りを心掛けています。また、本人に無理をさせないように、訓練日程などを把握し、事前に部署長と調整しています。

●消防団に求めることはありますか。

消防団の活動内容が一般的に浸透していないと感じます。もっと広く知ってもらう方法があればと思います。もちろん消防団だけが考えるのではなく、これについては行政や、地区と力を合わせて伝えていくべきだと考えています。実際に火災があった地区では、無火災の地区と比較すると、消防団に対する理解は深いと思います。しかし、特に災害が無い地区に対しては消防団という存在がうまく伝わっていないと思います。昔のイメージが払しょくされず、飲酒する機会が多い集団と思われていることがありますが、そのようなことは決してありません。地区に消防団の必要性が伝わり、消防団員たちが日ごろの訓練や災害対応に対して感謝される相互に理解のある環境となることを望んでいます。